

利用者の声(総括表)

【平成30年度 良かった点】

- ・「KURUMIRU」で自分が製作した商品が販売されていて嬉しかった。ワークショップで参加者にアクセサリーの製作を指導できて楽しかった。区内企業で昼休みに販売会を行っていただき、短時間に沢山売れて良かった。庁舎でパンやハンバーガーが手軽に買えて便利だ。(事業番号1「作業所等経営ネットワーク事業の充実」)
- ・毎月、新しいおもちゃがあって楽しみです。(事業番号2「おもちゃサロンの充実」)
- ・液状化という言葉は知っていたが、はじめて仕組みがわかった。模型を作ったので、友達にも教えてあげたい。家に帰ったらお父さんにも蒸しパンを作ってあげたい。(事業番号7「災害ボランティアの活動体制の整備」)
- ・適切なアドバイスをいただいて、就職することができました。部屋の片づけを手伝ってもらい、気持ちが楽になりました。夏のイベントに参加できて楽しかった。(事業番号13「生活保護受給者自立支援プログラム」)
- ・分かりやすく気軽に楽しく勉強ができる。分からなかった問題が解けるようになった。成績がUPしている。(事業番号14「生活困窮者自立支援事業」)
- ・町会が、町会内にある力を見つけてネットワークをつなげていると思います。子ども、高齢者の区別を取っ払い、地域を1つにしている取り組みを知ることができました。児童館や保育園との新しい関係に驚きました。身につくような他町会との交流ができました。自治会活動をしています、これがボランティアとは思っていませんでした。たいへん勉強になりました。活用させていただきます。今日の内容を地域の中で生かしていきたいです。自分だけではなく、地域の方々を巻き込んで活動していきたい。(事業番号15「すみだ地域福祉・ボランティアフォーラムの開催」)
- ・エンディングノートの説明などおしゃべり以外にも勉強になることがあってためになる。(事業番号23「ふれあいサロン実施地区の拡大」)
- ・災害時などに支えあえる地域にしたい。(事業番号24「小地域福祉活動実践地区の拡大」)
- ・地域に知り合いが増えた。(事業番号28「CSW(コミュニティ・ソーシャル・ワーカー)によるプラットフォームの形成と地域課題の解決」)

【平成30年度 改善点】

- ・具体的な経験談や事例が多くあると、とても分かり易い。専門的な話しは分かりにくいことが多い。簡易に噛み砕いて説明して欲しい。(事業番号9「成年後見制度の利用支援」)
- ・部活動と日程が重なって参加できない日が多い。本人のやる気が出ない。学校の点数が上がらない。(事業番号14「生活困窮者自立支援事業」)

【平成29年度利用者の声から改善点として挙げられた内容に対する対応】

①《事業番号9「成年後見制度の利用支援」》

[H29改善点]内容が専門的で難しかった。ワーク形式の講座やグループディスカッションはもっと時間を増やした方が良い。

→[H30対応]受講生の感想を全講師にフィードバックし、翌年の改善に努めています。今年度から施設見学会を組み込むなど、座学以外の講座を増やしました。

②《事業番号10「市民後見人の育成・支援」》

[H29改善点]市民後見人の経験をまとめたマニュアルや事例集を作ってほしい。

→[H30対応]作成に着手。年度末までに完成予定。

③《事業番号15「すみだ地域福祉・ボランティアフォーラムの開催」》

[H29改善点]例年、若い世代の参加が少ないという反省が出ている。

→[H30対応]若い人を地域福祉活動にまきこむような工夫をしている活動や、学生や地元企業と一緒に避難訓練をした町会を紹介した。

[H29改善点]ボランティア実践者向けのものにするか、新たな活動者の発掘にするか、その回ごとにテーマを絞ることも考えたい。

→[H30対応]それぞれで活動をしている町会・自治会とボランティアサークル・個人ボランティアをつなぐことをテーマに開催した。

【まとめ】

良かった点では、利用者が自身と地域との繋がりを実感できた際に喜びを感じる事が分かった。また地域活動を通して学んだことを普段の生活に活かしたいという意欲的な意見が多く見られた。

改善点では、利用者が事業をより理解するための意見が挙げられた。

また平成29年度に利用者の声で改善点として挙げられた要望について、平成30年度にどのような対応が取られているかを調査した。その結果、全ての要望について、対応策を考え実行に移していることが分かった。

第3次墨田区地域福祉計画【後期】
平成30年度実績・利用者の声（平成30年10月末時点）

事業名	作業所等経営ネットワーク事業の充実	第3次墨田区地域福祉計画【後期】	
主管課名等	障害者福祉課	事業番号	1
事業概要	自主生産品の共同販売(スカイワゴン)等を実施している、区内にある複数の作業所で組織された「墨田区福祉作業所等経営ネットワーク『Kai』」の共同受注・共同販売等のしくみを活用し、福祉施設における仕事の受注・販売の拡大による工賃向上を目指します。		
事業目標 (平成28～32年度)	<p>【数値的な目標】(H29) 作業所の受注額:13,860,000円 スカイワゴン売上:6,000,000円</p> <p>【質的な目標】 スカイワゴンにより、障害者の自主生産品の認知度を高め、障害者への理解を促します。「すみのわ」においては、地域の製造・販売業者・飲食店との新たな繋がりを構築し、販路を拡大して工賃向上を図ると共に障害者と地域の相互理解を深めます。</p>		
事業計画 (平成30年度)	<p>【数値的な目標】 スカイワゴンの庁舎での販売を週二回(火曜、木曜)で合計100回実施します。 ネットワーク企画展を1回実施します。 イベントでの販売を3回実施します。 作業所の受注額:13,860,000円 スカイワゴン販売額:8,000,000円</p> <p>【質的な目標】 自主生産品の共同受注・共同販売等のしくみを活用し、受注・販売を拡大します。 区内のコンサルタントを活用して、HPの立ち上げ、カタログの作成などを行い、販路開拓を進めます。 「すみだまち処」と「ネットワーク企画展」の売上向上をコンサルタント・各施設と協働して進めます。</p>		
事業実績 (平成30年10月末時点)	<p>【数値的な成果】 スカイワゴンの庁舎での販売は、62回実施し、ネットワーク企画展は来年2月8日～13日に実施に向け準備を進めています。 通常のスカイワゴン以外の販売は、「福祉フォーラム」「SBSホールディング」、の2回行い、「スマイル♡フェスティバル」での販売を予定しています。さらに「すみのわ」商品の販売をトリフォニーホールで、コンサートの開催時に行ってきました。 作業所の工賃総支給額:6,570,160円(ふれあいセンター)、7,033,830円(墨田福祉作業所) 作業所の平均工賃:月額 19,324円 (ふれあいセンター)、月額 17,943円 (墨田福祉作業所) スカイワゴン総販売額:4,266,070円、月平均 609,439円、一日平均 68,808円、一日来客数 116人</p> <p>【質的な成果】 区内のクリエイターとの協働による新商品の開発のみならず、今年度も都庁直営店「KURUMIRU」、すみだ北斎美術館等で販売を行うとともに、「MUJI」(「無印良品」)有楽町店等で、一般のお客様が参加し、利用者と共に作業所の自主生産品を作るというワークショップを定期的開催してきました。</p>		
利用者の声	<ul style="list-style-type: none"> ・「KURUMIRU」で自分が製作した商品が販売されていて嬉しかった。 ・ワークショップで参加者にアクセサリの製作を指導できて楽しかった。 ・区内企業で昼休みに販売会を行っていただき、短時間に沢山売れて良かった。 ・庁舎でパンやハンバーガーが手軽に買えて便利だ。 		
改善点に対する対応			

第3次墨田区地域福祉計画【後期】
平成30年度実績・利用者の声（平成30年10月末時点）

事業名	おもちゃサロンの充実	第3次墨田区地域福祉計画【後期】	
主管課名等	社会福祉協議会地域福祉活動担当	事業番号	2
事業概要	障害のある子どもたちを中心に、地域の子どもたちが好きなおもちゃを選んでのびのび遊べる場所を提供するとともに、子どもや子育て世代の交流の場、父親・母親の身近な相談の場としての機能を充実させていきます。		
事業目標 (平成28～32年度)	<p>【数値的な目標】 開催日を増やします。 障害のある子ども専用を増やします。 区民施設や福祉施設等への出張おもちゃサロンを実施し、実施方法の多様化を図ります。</p> <p>【質的な目標】 ボランティアや他世代の交流を通じて、若い世代の地域活動への関心を深めるとともに障害を持つ人への理解を深めます。</p>		
事業計画 (平成30年度)	<p>【数値的な目標】 すみだおもちゃサロン: 毎週金曜日開催 障害児専用の拡大: 第3月曜日午前の開催 (障害児専用の時間: 毎月第1金曜日の午後、第3月曜日の月2回) みどりおもちゃサロン: 毎月第4水曜日開催</p> <p>【質的な目標】 障害児の参加が増え、障害児の親同士やボランティアとのつながりのなかで、気軽に相談できる場となります。 障害の有無に関わらず、同じ空間で遊び、交流します。</p>		
事業実績 (平成30年10月末時点)	<p>【数値的な成果】 すみだおもちゃサロン: 毎週金曜日開催・障害児専用(月2回) 34回開催 参加者数: 938名 みどりおもちゃサロン: 毎月第4水曜日開催 11回開催 参加者数: 617名</p> <p>【質的な成果】 気軽にお母さんたちがちょっとした悩み事を話せる場となっています。必要に応じて専門機関に相談を繋いでいます。</p>		
利用者の声	毎月、新しいおもちゃがあって楽しみです。		
改善点に対する対応	/		

第3次墨田区地域福祉計画【後期】
平成30年度実績・利用者の声(平成30年10月末時点)

事業名	災害ボランティアの活動体制の整備	第3次墨田区地域福祉計画【後期】	
主管課名等	社会福祉協議会ボランティアセンター	事業番号	7
事業概要	大規模災害時の災害ボランティアの活動拠点となる「災害ボランティアセンター」の準備を進め、活動体制を適時見直し、訓練を行うなどして災害に備えます。		
事業目標 (平成28～32年度)	<p>【数値的な目標】 設置訓練1回／災害ボランティア講座2回 災害ボランティアコーディネーター研修の受講</p> <p>【質的な目標】 適時、災害ボランティアセンター運営マニュアルを見直します。 他自治体の社会福祉協議会、NPO等と連携することにより、日頃からの情報共有と相互協力体制を築きます。</p>		
事業計画 (平成30年度)	<p>【数値的な目標】 設置訓練1回／災害ボランティア講座2回 災害ボランティアコーディネーター研修の受講 他自治体の災害ボランティアセンター連携会議への参加</p> <p>【質的な目標】 毎年設置訓練を行い、適宜災害ボランティアセンターの運営マニュアルの見直しをします。 また、災害時の協力体制を強化するため、他の自治体の社会福祉協議会と連携をすすめます。</p>		
事業実績 (平成30年10月末時点)	<p>【数値的な成果】 災害ボランティア講座1回</p> <p>【質的な成果】 子供(親子)を対象に、地震による液状化現象について学び、その仕組みを利用したペットボトルの模型を作製した。 また、「東京くらし防災」を参考に蒸しパンを実際に作り、在宅避難時の食事について学んだ。</p>		
利用者の声	<ul style="list-style-type: none"> ・液状化という言葉は知っていたが、はじめて仕組みがわかった。 ・模型を作ったので、友達にも教えてあげたい。 ・家に帰ったらお父さんにも蒸しパンを作ってあげたい。 		
改善点に対する対応	/		

第3次墨田区地域福祉計画【後期】
平成30年度実績・利用者の声（平成30年10月末時点）

事業名	成年後見制度の利用支援	第3次墨田区地域福祉計画【後期】	
主管課名等	厚生課	事業番号	9
事業概要	成年後見制度に関して、身寄りがいない場合等の区長による申立て、申立て費用や後見人への報酬費用の助成、後見人として支えてくれる区民(市民後見人)の育成など、制度を必要とする人が利用しやすいしくみをつくります。		
事業目標 (平成28～32年度)	<p>【数値的な目標】 市民後見人養成研修受講者:20名(毎年度)</p> <p>【質的な目標】 区長申立にあたり、高齢者福祉課との連携を強め、迅速かつ適正な申立てにより権利侵害を防ぎます。また、障害者福祉課及び各保健センターと連携し、知的障害者、精神障害者の利用が増えるようにします。 市民後見人養成研修に区民が参加しやすいよう、権利擁護センターとともに工夫します。</p>		
事業計画 (平成30年度)	<p>【数値的な目標】 市民後見人養成研修受講者:20名</p> <p>【質的な目標】 認知症の高齢者を中心に、成年後見制度の利用が進んでいます。報酬助成により、収入や資産が少ない方でも利用しやすくします。 市民後見人の養成を区独自に推進し、地域での社会貢献に意欲のある方の学びの場、活動の場とします。</p> <p>(参考) 平成30年度見込み 成年後見区長申立:75件 報酬助成:95件</p>		
事業実績 (平成30年10月末時点)	<p>【数値的な成果】 市民後見人養成研修受講者:13名</p> <p>【質的な成果】 30年度市民後見人養成研修受講生は、10月末時点で1人も欠けることなく受講を継続しています。</p>		
利用者の声	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な経験談や事例が多くあると、とても分かり易い。 ・専門的な話しは分かりにくいことが多い。簡易に噛み砕いて説明して欲しい。 		
改善点に対する対応	<p>【平成29年11月末に聞き取った利用者の声のうち、改善すべき点として挙げられた内容に対する対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内容が専門的で難しかった。 →受講生の感想を全講師にフィードバックし、翌年の改善に努めています。 ・ワーク形式の講座やグループディスカッションはもっと時間を増やした方が良い。 →今年度から施設見学会を組み込むなど、座学以外の講座を増やしました。 		

第3次墨田区地域福祉計画【後期】
平成30年度実績・利用者の声(平成30年10月末時点)

事業名	市民後見人の育成・支援	第3次墨田区地域福祉計画【後期】	
主管課名等	社会福祉協議会権利擁護センター	事業番号	10
事業概要	<p>成年後見制度が必要な方を地域で支えるしくみとして、市民後見人の育成と支援を行います。市民後見人養成研修の内容の充実を図るほか、研修修了者にフォローアップを行い、支援力を強化します。研修修了者の受任支援を行い、後見人等を受任した市民後見人には、社会福祉協議会が監督人として支援します。</p>		
事業目標 (平成28～32年度)	<p>【数値的な目標】 養成研修修了者:15名(毎年度) 市民後見人受任件数:10件(毎年度)</p> <p>【質的な目標】 高齢者福祉課や高齢者支援総合センター等との連携を強化することにより、市民後見人の利用を促進するしくみづくりを進めます。 研修修了者を活用した法人後見の開始について検討します。 研修修了者が活躍できる多様な場づくりを進めます。</p>		
事業計画 (平成30年度)	<p>【数値的な目標】 養成研修修了者:12名 市民後見人受任件数:10件</p> <p>【質的な目標】 研修修了者の活躍の場拡大の実践を開始します。また、来年度からの法人後見開始を見据え、研修生と修了生と共に行う支援体制を検討します。さらに、受任者への支援として、活動マニュアルの作成を行います。</p> <p>【参考】 29年度実績 養成研修修了者累計人数:73名 市民後見人受任累計件数:41件</p>		
事業実績 (平成30年10月末時点)	<p>【数値的な成果】 養成研修修了者:13名 市民後見人受任件数:4件</p> <p>【質的な成果】 研修修了者の活躍の場拡大の検討を開始。また、法人後見開始を見据え、研修生と修了生と共に行う支援体制を検討中。さらに、受任者への支援として、活動マニュアルの作成を開始しています。</p>		
利用者の声	<p>年間10件受任の目標が達成できないのは、区民が使いやすくないのでは？法人後見など区民が使いやすい体制作りが必要と思う。</p>		
改善点に対する対応	<p>【平成29年11月末に聞き取った利用者の声のうち、改善すべき点として挙げられた内容に対する対応】 ・市民後見人の経験をまとめたマニュアルや事例集を作ってほしい。 →作成に着手。年度末までに完成予定。</p>		

第3次墨田区地域福祉計画【後期】
平成30年度実績・利用者の声(平成30年10月末時点)

事業名	生活保護受給者自立支援プログラム	第3次墨田区地域福祉計画【後期】	
主管課名等	生活福祉課	事業番号	13
事業概要	<p>生活保護受給世帯に対し、就職活動の支援、社会参加の支援、日常生活の支援、進学の支援を行い、世帯の状況に沿った自立(就労自立、日常生活自立、社会生活自立)を図っています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「生活保護受給者等就労支援事業」ハローワーク活用プログラム ・就労支援相談員活用プログラム ・墨田区母子自立支援プログラム ・被保護者社会参加促進事業(被保護者就労意欲喚起等プログラム) ・被保護者居宅生活移行支援事業(被保護者居宅生活移行支援プログラム) ・元ホームレス被保護者自立生活支援プログラム ・高校進学等支援プログラム ・債務整理支援プログラム 		
事業目標 (平成28～32年度)	<p>【数値的な目標】 プログラムの質を高め、自立世帯を増やします。</p> <p>【質的な目標】 世帯の状況に沿った支援を行い、自立を促します。</p>		
事業計画 (平成30年度)	<p>【数値的な目標】 ハローワーク活用プログラム 参加者:220人 達成者:148人 被保護者就労意欲喚起等プログラム 参加者:150人 元ホームレス被保護者自立生活支援プログラム 参加者:100人 達成者:100人</p> <p>【質的な目標】 ・就労意欲のある被保護者の求職活動を支援し自立を促す。 ・社会参加促進事業を利用し被保護者の就労意欲を喚起する。 ・居宅生活に不安がある被保護者が安心して生活できるようサポートする。</p>		
事業実績 (平成30年10月末時点)	<p>【数値的な実績】 ハローワーク活用プログラム 参加者:134人 達成者:92人 被保護者就労意欲喚起等プログラム 参加者:84人 元ホームレス被保護者自立生活支援プログラム 参加者:102人 達成者:102人</p> <p>【質的な実績】 ・就労意欲の低い受給者に対し粘り強く働きかけ、就労につなげることができた。 ・引きこもりの対象者のゴミ屋敷状態の家を二週間、ほぼ毎日片づけの支援をした。 ・元ホームレスの対象者にイベント参加を呼びかけ、他の利用者との交流の場を提供した。</p>		
利用者の声	<ul style="list-style-type: none"> ・適切なアドバイスをいただいて、就職することができました。 ・部屋の片づけを手伝ってもらい、気持ちが楽になりました。 ・夏のイベントに参加できて楽しかった。 		
改善点に対する対応			

第3次墨田区地域福祉計画【後期】
平成30年度実績・利用者の声（平成30年10月末時点）

事業名	生活困窮者自立支援事業	第3次墨田区地域福祉計画【後期】	
主管課名等	生活福祉課	事業番号	14
事業概要	生活困窮者自立支援法に基づき、生活や仕事の不安、住居の不安などを抱える生活困窮者（生活保護受給者を除く）の相談窓口を平成27年度から開設しました。相談支援員が相談者に寄り添い、他の機関と連携しながら、自立に向けた支援を行います。		
事業目標 (平成28～32年度)	【質的な目標】 相談者の意志を尊重し、生活困窮に関する様々な課題を紐解きながら、各種制度及び事業の活用と、これに関係する機関と連携を図り、相談者の自立を支援します。		
事業計画 (平成30年度)	【数値的な目標】 ・自立支援事業 新規相談受付数 350件 ・学習支援事業 通年事業 50名 長期休み中の宿題サポート事業 70名 【質的な目標】 ・区内各施設等への制度周知活動を行い、対象者把握に努めます。また、関係する機関と連携を図り、相談者の自立を支援します。・生活困窮世帯の中学一年生から高校一年生夏までの子どもを対象に、2会場各50回の学習会を開催します。・ひとり親世帯を中心とする生活困窮世帯の小学四年生から中学三年生までの子どもを対象に、長期休み期間（夏休み10日、冬休み5日）に、子どもの居場所づくりを目的とした昼食付の学習会（2会場各35名）を実施します。		
事業実績 (平成30年10月末時点)	【数値的な成果】 ・自立支援事業 新規相談受付数 206件 ・学習支援事業 通年事業参加者数 48名（定員50名） 長期休み中の宿題サポート事業参加者数 49名（定員70名） 【質的な成果】 ・自立相談支援事業では相談者一人一人の話を傾け、どのような支援が必要なのか把握した上で、各種支援施策につなげるよう努めています。 ・学習支援事業では、生活保護受給世帯の子どもを主な対象とする通年事業に加え、ひとり親世帯の子どもを主な対象とした、学校の長期休み中の宿題をサポートするため、昼食付きの学習会を実施しています。		
利用者の声	学習支援事業について（中間アンケート結果から） ・「分かりやすく気軽に楽しく勉強ができる」、「分からなかった問題が解けるようになった」、「成績がUPしている」（満足していると回答した方の理由） ・「部活動と日程が重なって参加できない日が多い」、「本人のやる気が出ない」、「学校の点数が上がらない」（満足していないと回答した方の理由）		
改善点に対する対応	/		

第3次墨田区地域福祉計画【後期】
平成30年度実績・利用者の声（平成30年10月末時点）

事業名	すみだ地域福祉・ボランティアフォーラムの開催	第3次墨田区地域福祉計画【後期】	
主管課名等	厚生課	事業番号	15
事業概要	地域福祉の推進及び「すみだ・ボランティアの日」の啓発を兼ねた地域福祉・ボランティアフォーラムを開催します。（墨田区社会福祉協議会すみだボランティアセンターと共催）		
事業目標 （平成28～32年度）	<p>【数値的な目標】 毎年開催します。</p> <p>【質的な目標】 地域福祉関係者や地域福祉に関心のある人たちが情報交換をしたり、課題解決のためのヒントを得たりすることで、地域福祉の推進を図ります。 ボランティアについての認識を深めてもらい、ボランティア活動の促進を図ります。</p>		
事業計画 （平成30年度）	<p>【数値的な目標】 7月7日（土）開催予定 「縁が育む 地域の力 ～町会・自治会とボランティア～」をテーマに活動事例紹介とグループディスカッションを行います。 地域力アップのアイデアを出し合い、地域福祉活動の参考となるよう、フォーラムを開催します。</p> <p>【質的な目標】 地域福祉活動の参考となる事例を紹介したり、様々な方とディスカッションをすることで、地域福祉関係者や住民の方々の活動がひろがり、地域福祉の推進を図ります。</p>		
事業実績 （平成30年10月末時点）	<p>【数値的な実績】 来場者 約160名</p> <p>【質的な実績】 今年度は「アイデア次第で地域力アップ」～町会・自治会とボランティア～をテーマに開催した。 地域力アップに取り組んでいる活動事例紹介「地域みんなが児童館の応援団」「ひとつになった避難訓練」「地域丸ごと 小地域福祉活動」を聞いた後、グループに分かれ「地域力アップのアイデアを出し合おう」という題でディスカッションをしたことで、今後の地域活動の参考になった。</p>		
利用者の声	<ul style="list-style-type: none"> ・初めて参加しましたが、サークルで活動はしているものの地域のつながりの薄さを改めて実感。もう少し“知ること”をしなければと思いました。 ・町会が、町会内にある力を見つけてネットワークをつなげていると思います。子ども、高齢者の区別を取っ払い、地域を1つにしている取り組みを知ることができました。 ・児童館や保育園との新しい関係に驚きました。 ・身につくような他町会との交流ができました。自治会活動をしています、これがボランティアとは思っていませんでした。たいへん勉強になりました。活用させていただきます。 ・今日の内容を地域の中で生かしていきたいです。自分だけではなく、地域の方々を巻き込んで活動していきたい。 ・16時で終わりにしてほしい。 		
改善点に対する対応	<p>【平成29年11月末に聞き取った利用者の声のうち、改善すべき点として挙げられた内容に対する対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例年、若い世代の参加が少ないという反省が出ている。 若い世代が地域福祉・ボランティアに興味を持つ内容のフォーラムを開催していきたい。 →若い人を地域福祉活動にまきこむような工夫をしている活動や、学生や地元企業と一緒に避難訓練をした町会を紹介した。 ・ボランティア実践者向けのものにするか、新たな活動者の発掘にするか、その回ごとにテーマを絞ることも考えたい。 →それぞれで活動をしている町会・自治会とボランティアサークル・個人ボランティアをつなぐことをテーマに開催した。 		

第3次墨田区地域福祉計画【後期】
平成30年度実績・利用者の声(平成30年10月末時点)

事業名	ふれあいサロン実施地区の拡大	第3次墨田区地域福祉計画【後期】	
主管課名等	社会福祉協議会地域福祉活動担当	事業番号	23
事業概要	地域のだれでも参加できる気軽な交流の場、情報交換の場であるふれあいサロンの拡大に取り組みます。ふれあいサロンの運営を通じて、地域住民が地域の課題に気づき、小地域福祉活動に発展していただけるよう支援します。		
事業目標 (平成28～32年度)	<p>【数値的な目標】 活動地区を年間5地区ずつ拡大します。 複数の町会・自治会を範囲とした拠点型ふれあいサロンを年間1地区開設します。</p> <p>【質的な目標】 ふれあいサロンを実施することで、地域内で互いに交流し、気にしあう関係ができ、さらに見守り活動や訪問活動など、活動の幅を広げていきます。</p>		
事業計画 (平成30年度)	<p>【数値的な目標】 ふれあいサロン活動地区:27地区 拠点型ふれあいサロン:4地区</p> <p>【質的な目標】 ふれあいサロンを実施することで、地域の中で世代をこえた交流が生まれ、日常にお互いが気にしあう関係を築きます。</p>		
事業実績 (平成30年10月末時点)	<p>【数値的な成果】 ・ふれあいサロン活動地区:23地区(新規2地区増、2地区は小地域福祉活動に移行) ※上記23地区以外に小地域福祉活動の一環としてふれあいサロンを実施している地区は15地区 ・拠点型ふれあいサロン:4地区</p> <p>【質的な成果】 ・地域の中でお互いを見守ろうという気持ちが出てきています。</p>		
利用者の声	エンディングノートの説明などおしゃべり以外にも勉強になることがあったためになる。		
改善点に対する対応	/		

第3次墨田区地域福祉計画【後期】
平成30年度実績・利用者の声(平成30年10月末時点)

事業名	小地域福祉活動実践地区の拡大	第3次墨田区地域福祉計画【後期】	
主管課名等	社会福祉協議会地域福祉活動担当	事業番号	24
事業概要	<p>お互いが顔見知りの地域で住民同士が自主的に行う支えあい活動(小地域福祉活動)の拡大に取り組みます。それぞれの地域の課題に応じた取り組みを、地域住民と一緒に考え、実施していきます。</p>		
事業目標 (平成28～32年度)	<p>【数値的な目標】 活動地区を年間3地区ずつ拡大します。 ふれあいサロンから小地域福祉活動に活動を拡大する地域を増やします。</p> <p>【質的な目標】 活動地区が拡大することで、住民同士の見守り・声かけが行われたり、地域の課題を自分たちで気づき、解決する関係ができていきます。</p>		
事業計画 (平成30年度)	<p>【数値的な目標】 小地域福祉活動実践地区:33地区</p> <p>【質的な目標】 見守りや声かけ、気になる人への訪問などを住民が実施することで、子どもから高齢者、障害者まで地域で支えあう関係を作り、活動者同士で課題解決に向けてともに考えていきます。</p>		
事業実績 (平成30年10月末時点)	<p>【数値的な成果】 小地域福祉活動実践地区:30地区(2地区増、2地区は老人会に合併) ふれあいサロンから小地域福祉活動への移行:2地区</p> <p>【質的な成果】 支えあいマップづくりなどを通じて、地域の高齢者を気にかけて、訪問を始めるなど、住民主体で支えあい活動が行われています。</p>		
利用者の声	災害時などに支えあえる地域にしたい		
改善点に対する対応			

第3次墨田区地域福祉計画【後期】
平成30年度実績・利用者の声(平成30年10月末時点)

事業名	CSW(コミュニティ・ソーシャル・ワーカー)によるプラットフォームの形成と地域課題の解決	第3次墨田区地域福祉計画【後期】	
主管課名等	社会福祉協議会地域福祉活動担当	事業番号	28
事業概要	<p>社会福祉協議会のCSWが、地域住民、町会・自治会、民生委員・児童委員、専門機関と協働してプラットフォームを形成し、高齢者や障害者、子育て世帯、引きこもりの人などの個別課題の解決を促します。【課題別プラットフォーム】</p> <p>CSWがプラットフォームにおいて、地域の住民・団体の学びあいを進め、地域の課題解決力の向上を図ります。【福祉教育プラットフォーム】</p>		
事業目標 (平成28～32年度)	<p>【数値的な目標】 CSWの配置 地区別民生委員・児童委員協議会ごとに活動拠点を設け、相談活動やふれあいサロンを実施します。地域の多様な課題を関係者が共有し、役割分担して協働するしくみとしてのプラットフォームづくりを促進します。 小地域福祉活動連絡会の実施 地域福祉活動セミナーの実施</p> <p>【質的な目標】 活動拠点での相談活動やふれあいサロンを通して、住民の中に地域福祉活動者を増やします。住民が地域の課題に気づき、社会福祉協議会や専門機関とともに課題解決に向けて考え、活動できるような地域を増やします。</p>		
事業計画 (平成30年度)	<p>【数値的な目標】 CSWによる相談対応 地域福祉プラットフォームの継続実施(2ヶ所) 新規地域福祉プラットフォームの開設準備(2ヶ所) 福祉なんでも相談の対応継続</p> <p>【質的な目標】 地域で解決できない課題についてCSWを中心に地域住民、民生委員・児童委員、専門機関が協働する仕組みを作ります。 重複した課題のある世帯や住民とのかかわりのない個人の課題について、CSWが個々の課題を整理し、専門機関と連携し課題解決を図ります。 交流機能と相談機能を有した常設の地域福祉拠点2ヶ所の運営と、新規拠点2ヶ所の設置準備を行います。 多くの住民が地域福祉拠点に関わり、住民が地域の課題に気づき、解決に向けて活動できる課題解決力の向上を図ります。</p>		
事業実績 (平成30年10月末時点)	<p>【数値的な成果】 コミュニティソーシャルワーカーの相談件数:394件 常設プラットフォーム 北部地区:キラキラ茶家(毎週火・木開設) 利用者実績:888名 南部地区:ガランドール(月曜～金曜開設) 利用者実績:789名</p> <p>【質的な成果】 常設のプラットフォームについては、地域の中で気軽に交流できる場として認知されています。地域の気になる人の情報が入りやすくなり、高齢者見守り相談室や子育て支援センター、民生・児童委員と協力しながら相談に応じています。精神科のクリニックの相談員や保育士による専門相談の時間を新たに設けました。</p>		
利用者の声	地域に知り合いが増えた。		
改善点に対する対応			